
君の好きなうた。

美月みゅん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の好きなうた。

【Zマーク】

Z5968C

【作者名】

美月みゅん

【あらすじ】

ある日、偶然に再会した昔の彼。10年たった今でも思い出すあの頃の気持ち。今でもおぼえていますか？

(前書き)

眠れなくて即興で書きました。
大人の恋も書きたいなーと。

偶然とはおそろしい・・・・・。

数年ぶりの再会で一瞬、誰かわからなかつた。

時々、元気かな？ 程度には思い出しあはしていただけれど。

まだ子供だつた頃、大人になるまで一緒にいた人。

誰よりもあたしのことをわかっていてくれた優しい人。

たくさん思い出がふきだしてくるみたいに頭の中をぐるぐるする。

いいものも。
わるいものも。

「今、帰り？」

あたしは必死で平静を装つて話しかけていた。

何もこんな平日に、こんなに大勢の人間の中からこの人に会わな
くともいいだろうに。

仕事帰りの駅のホーム。

知らない人間のほうが断然多いにきまつていてこの場所であたし
は10年前に別れた彼を見つけてしまつた。

「いや、これから仕事。夜番だから」

「まだあそこのレストラン？」

「違う場所。今はダイニングバーみたいなところ」

「へへ。そつか、シエフの道は険しいもんね」

以前は田を輝かせて話してくれた夢も今はもう現実に押ししつぶされちゃったわけだ。

相変わらず童顔でとても30過ぎてほんとうに彼をまじまじと見つめる。

「み・・・・・あー、佐野さんはまだあの事務所に？」

み。その後はわかる。

苗字でなんか呼んだことなんかないせに。

もうあの頃の愛称で呼ぶ事はできないうわけだ。

「もう変わったにきまってるじゃない、あれから何年たつたと思つてるのよ」

困った顔が昔とちつとも変わらないのに笑いがでてしまつ。本当にあれから10年もたつたなんて思えないくらい。

「だよな。飽き性だもんな」

「そう、でもちゃんと働いてる」

「働くの嫌いってあんなに言つたのにがんばつてるな」

くしゃっと皺をつくつて笑う彼が好きだった。いつも受け止めてくれる優しさが好きだった。

「もういい大人ですから」

「確かに。もう子供じゃないからな」

「だよ。そつちこも結婚生活はどう?」

あたしと別れた後につきあつた人と結婚すると報告は受けていた。
彼が結婚を決めたと聞かされて、その後、一度だけ会う機会があ
つた。

おめでとうと心から祝福したけれど、彼は複雑な顔をしていたの
をおぼえている。

だからこそ会うのは怖かった。

ほんの少し会話して早く消えたかった。

彼が結婚して、その後どうなっているかなんて知らないでいい。
それなのに・・・・・。

「普通だよ」

「もう5年? 子供は・・・・・あ、これは聞いたりまづいか」

「何に気をつかってるんだよ。子供はまだ。あの人がまだいらない
つて」

「ふうん。年上なのにまだなんだ・・・・・」

「子供好きじゃないってさ」

少し寂しそうに笑う。

うまくいってないの? 不満があるの?

それを知つてもあたしには何もできないんだけどね。

心の中で苦笑する。

早く仕事に行けばいい。

これ以上、思い出を汚したくなかったし。
なによりも。

あまりにも遠くて。

あたしと彼はもうなんの関係もなくて。
遠い。

彼からあたしも遠いだろう。

あたしから彼は遠くて。

話をしても届かないんじゃないかと思いつてしまつぱい。

あたしも変わってしまったし。
彼も変わってしまってる。

「あ、まあ・・・・・なんだっけ

「何よ、もー、こんなところで時間つかつていいの？ 仕事いいの？」

「あー・・・・・だよな。あー、なんだ、その・・・・・」

時々、何かを期待してゐみたいに話をつなげようとするのがいやらしくて。

前はこんな事をしなかつたつて拒絕反応がでてしまつ。

元気にしていてやえいればそれでいい。

そう思つて別れた時は。

あたしの想いはもう恋とはちがつていた。

一緒にいる時間が長すぎたつて思つてたけど本当はやじらない。
一緒にいてもお互いをたがめられなかつた。

同じところで甘えて。

あたしたちはダメになつていいく。

あたしは変わりたかった。

甘えてワガママばかり言つて何も努力しないのではなくて。努力してしつかりとした女になりたかった。仕事も自分も樂しみたかった。

「はいわつしないのは相変わらずなのね～」

あたしは笑うことしかできなかつた。あの時の選択は間違いやないつてずつとビニカドヒツカかつていて。

まだ答えはでていない。

今、目の前にいる彼はどうだつたんだらう。もう忘れてしまつてるかな。
それともまだ恨んでいるんだらうか。
勝手に決断してしまつたあたしを・・・・・。

「ほり！ あたしも帰るから行つて！」

「お、おひ」

「またね！ 仕事がんばつて！」

「またね」なんて社交辞令をいこいつあたしは彼に背を向けて歩き始めた。

すこし歩いたところで振り返つてしまつた。
しまつた！－と思つた時はおそかつた。

以前と同じ。

彼はずつと見ていた。

「何で行かないのー？ 仕事おくれるよー。」

あたしは手を振つて走りだす。

子供じゃあるまいし。

バカだ。

だけど。

あたしもバカだ。

どんなにショックを受けたとしても。

今はもう変わつてしまつても。

思い出は消えなくて。

一人でよく聞いたラジオ番組を今でも時々きいていたり。

一人でよく行ったお店や。

車の中で眠つてしまつとあたしの好きな曲をかけてくれた事とか。
あたしが寝てると思って、歌をうたつてしまつていたこととか。
何もかもを鮮明におぼえている。

今でも変わらないもの。

一緒じゃなくていい。

どこかで生きていてくれさえいればそれでいい。

「ずっと一緒にいようね」

彼がくれた約束。

破つてしまつたのはあたしだった。

手を離してしまつたのはあたし。

それなのに、いまだにあの人はあたしに笑いかけてくれる。

「つ、あたしの」と彼女のへりこ好き?」

「あ～? どうしてこんなてわかんないよ。なんでそんなに心配なんだ?」

「だつて、なんか不安なの」

「じゃあ、毎日愛してるって言つかな」

「言葉よつこわの一冊になれたらいこのにな。手とか足とか体の一部になつた」

「そんなのダメだー。マイがいなくなつちやんじやん。ずっと一緒にいればいつか不安なんてなくなるだ」

「わづかな、うん。じゃあ約束ね」

毎日、仕事が終わると3分の電話。

毎週火曜日のデート。

帰りの車の中はあたしの好きな曲が流れる。
運転中も手をつなぐ。

不安で寂しくて恋しくて幸せな時間。

それなのに・・・・・。

あたしは彼との約束を破つて自由を手にいた。

別れを切り出した時の彼の涙。

あたしは忘れない。

彼を傷つけたから、そのぶんだけ罰を受けた。

あたしはまだ自由の中。

リョウと別れて傷つくなつて事が痛いつて知つたから。

本当はリョウに会うのは辛い。

リョウがはやくあたしつて存在を忘れちやえぱいいのこつて。

あたしは人混みをかきわけて改札口を出る。

胸が少しだけ痛む。

リョウを乗せたであらう電車がホームを離れていくのが見える。胸の中に流れるあの曲。

あたしが好きだといつて彼も好きだといつたあの曲が聴こえる。恋しいわけじゃない。

戻りたいわけでもない。

ただ、あの頃のあたしが泣いてるだけ。

「帰りたくないよ・・・・・・・・

「また来週な、もう遅いぞ」

「ふー・・・・・・はやく大人になりたいよ」

「すぐだよ。ほら行けよ、家の人が心配する」

「うん・・・・・・」

「じゃあ、ミイが家にはいつて部屋の電気がつくまで外で見てるか

「本当? じゃあ、あたしは窓からコウガ曲がるまで見てる」

今でもあたしの事を思い出す?
今でもあなたを思い出す。

好きだったものすべて。
好きな曲。
好きな海。
好きな・・・・・。

あなたの幸せをいつまでも願つてるよ。

(後書き)

あとがきとこつ名の懺悔

連載の「僕恋」の本日分を書き上げてふ～っと一息入れたときに
何気なく大人恋も書いてみたいな～と書いてしまったこのお話・・・
・・・。

以前にブログの方で書いた実話をもとに書いてみました。といって
も実話ではありません・・・・・。
大人の甘酸っぱさをだしてみましたがどうでしょう?
ダメですかね・・・

ご感想などありましたらよろしくお願ひいたします。
僕たちは恋する理由の方も読んでいただけたら喜びます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5968c/>

君の好きなうた。

2010年10月8日15時11分発行